

2021年 3月12日

国立大学法人、公私立医科・歯科大学長
国立大学法人、公私立大学医・歯学部長 殿
関係機関の長

大阪大学大学院歯学研究科長
今里 聡 (公印省略)

口腔科学専攻「顎口腔病因病態制御学講座（口腔外科学第一教室）」
教授候補者の公募について(依頼)

拝 啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、先般より、大阪大学大学院歯学研究科では、2021年1月22日付け文書により、「歯学研究科口腔科学専攻顎口腔病因病態制御学講座（口腔外科学第一教室）」の教授候補者を下記により公募しておりましたが、この度、その公募期間を2021年4月16日（金）まで延長することといたしました。

本学におきましては、当該教室の教授は、大学院では、顎顔面口腔外科学、顎口腔先天異常学を担当し、同上分野の研究を推進します。また、学部では口腔で生じる疾患の病因を明らかにし、これを制御して治療に導く口腔外科学を担当致します。臨床面において、口腔外科全般の治療を担当しますが、特に、顎口腔領域の先天異常について重点的に診療にあたります。

大阪大学歯学部附属病院では口唇裂・口蓋裂をはじめ先天異常疾患に対して集約的一貫治療を目指して、2013年より「口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療センター」を開設し、同疾患の治療においては国内有数の実績を有しております。本件は上記分野の大学院教授の選考ですが、本センター長としても尽力いただくとともに、口腔外科学第二教室と連携し口腔外科の今後の診療体制の充実に協力していただきます。したがって、この分野において、以下の資質を有する気鋭の候補者を広く公募いたします。

1. 口腔外科領域全般にわたる十分な診療実績を有するとともに、とりわけ口唇裂・口蓋裂を中心とした先天異常に関する診療において、卓越した臨床能力と診療実績を有する。
2. 先天異常の診療を統括するとともに、適切な口腔外科医療を提供する診療体制を関連歯科・医科との協力のもと構築・管理できる。
3. 口腔外科学分野において優れた研究業績を有する。
4. 歯学部で先天異常を中心とした口腔外科学の教育が行える。
5. 医療安全管理体制の構築への貢献が期待できる。
6. 地域連携の構築と維持に卓越した実績を有する。
7. 人格、識見に優れ、研究、教育、指導に能力と熱意を有する。

つきましては、ご多忙中のところ恐縮に存じますが、貴学（研究科・学部）および関係機関の関係者各位にご周知方よろしくお願いいたします。

敬 具

記

1. 提出書類（別紙留意事項に沿って記載のこと）

- (1) 略歴書（別紙様式1）
- (2) 業績目録
- (3) 学会発表目録
- (4) 主要論文10編の別刷
- (5) 現在までの主な研究、教育、および臨床の内容
- (6) 口腔外科に関連する手術実績
- (7) 口腔外科に関連する代表的な臨床例
- (8) 研究、教育(学部および大学院教育)、および臨床、運営に対する抱負
- (9) 科学研究費補助金・各種研究助成金等外部資金の獲得・受領状況（別紙様式2）
- (10) 特許等の取得および出願状況
- (11) 関連する資格（歯科医師免許、認定医、専門医、指導医など）の証書の写し
- (12) 推薦者のある場合は、その推薦状（ただし推薦者は個人に限る）

2. 応募締切日 2021年4月16日(金)午後5時

3. 送付先および問合せ先

（送付先）〒565-0871

吹田市山田丘1-8

大阪大学大学院歯学研究科長 今里 聡

（郵送の場合は、顎口腔病因病態制御学講座（口腔外科学第一教室）」教授応募書類在中と
朱書きし、書留で送付すること）

（問合せ先）

大阪大学大学院歯学研究科総務課人事係

TEL 06-6879-2833

E-mail: si-soumu-jinji@office.osaka-u.ac.jp

4. その他

選考の過程で、必要に応じてプレゼンテーションを行います。その際の旅費等は支給いたしませんので、ご承知おきください。また、送付いただきました関係書類等はお返しいたしません。ビデオ・DVDは審査後、責任をもって焼却いたします。あらかじめご了承ください。

必要書類は、大阪大学大学院歯学研究科ホームページ

https://www.dent.osaka-u.ac.jp/graduate_school_000461.html よりダウンロードできます。

以上

(1) 略歴書 (別紙様式1)

- ① 学歴欄には、高等学校卒業以降の学歴を記入し、卒業、修了、中途退学について明記すること。
- ② 学位欄には、授与された大学名も()書きで併記すること。
- ③ 職歴欄には、所属講座や部署名等を記入し、退職、転勤、昇任について明記すること。
- ④ 加入学会欄には、学会名および役職名を記入すること。

(2) 業績目録

A4判の用紙に以下の順序で記入すること。なお、業績には全てにわたる通し番号を付すこと。

① 学術論文、症例報告、総説

次に掲げる区分により、英(欧)文論文、邦文論文の順で記載すること。

- (i) 学術論文：年代順に、通し番号、著者全員の氏名(英文の場合は、名はイニシャル)、発行年(西暦)、論文タイトル名、雑誌名、巻、ページ(始めと終わり)の順で記載し、本人の名前にアンダーラインを引き、corresponding authorに*印を付すこと。また、可能なものについては最後に2019-2020版のImpact Factor (IF、小数点以下第2位で切り捨て)、Citation Reference Index (CRI、被引用回数)を記載すること。掲載前の論文については、掲載証明のあるものを除き記載しないこと。なお、掲載証明を添付すること。オンラインでのみ公表されている場合は、URLアドレスを記載すること。

【記載例】

35. Veiga-Fernandes H, Coles MC, Foster KE, Patel A, Williams A, Natarajan D, Barlow A, Pachnis V, Kioussis D*. (2007) Tyrosine kinase receptor RET is a key regulator of Peyer's patch organogenesis. Nature. 446:547-551. (IF:34.4, CRI:41)

- (ii) 症例報告：前記の「学術論文」に準じて記載すること。

- (iii) 総説：前記の「学術論文」に準じて記載すること。

② 著書

- (i) 編集書の場合：編者名、発行年(西暦)、書名、出版社名、発行地、総ページ数を記載すること。

- (ii) 単行本への寄稿論文の場合：執筆者名、発行年(西暦)、論文タイトル名、著書名(編者名)、出版社名、発行地、記載ページ(始めと終わり)を記載すること。

- (iii) 単行本として発刊された抄録集(proceedings)の場合：執筆者名、発行年(西暦)、論文タイトル名、著書名(編者名)、出版社名、発行地、記載ページ(始めと終わり)を記載すること。

③ 翻訳書

前記の「著書」に準じて記載のこと。ただし、原著の書名、著者名、出版社名、発行地も併記すること。

(3) 学会発表目録

A4判の用紙に2016年度以降のものを、招待発表(特別講演、シンポジウム報告等)と一般発表に分け記載すること。それぞれ年代順に通し番号を付け、発表者全員の氏名(英文の場合、名はイニシャル)、発表タイトル、学会名、発表年月日、開催地名を記載し、本人の名前にアンダーラインを引くこと。なお、一般発表については国際学会での発表のみ記載すること。

(4) 主要学術論文10編の別刷 (各6部、コピー可)

業績目録中の主要学術論文10編の番号に○印を付し、その別刷各6部(コピー可)を添付すること。

(5) 現在までの主な研究、教育、および臨床の内容

A4判の用紙に3,000字程度に要約し、学位指導の実績等も具体的に記載すること。

(6) 口腔外科に関連する手術実績

A4判の用紙に、2011年以降に執刀、指導された手術症例数につき、口腔外科学会専門医制度の口腔外科手術分類(C1-3, D1-3 レベルⅡ以上のみ)の項目に分け、簡潔に記載すること。

(7) 口唇裂・口蓋裂・顎変形症に関連する代表的な臨床例

A4判の用紙1枚に1症例を記載し、計10症例提出すること(形式は自由とする)。そのうち1例は未編集手術ビデオあるいはDVD(音声付)を提出する。

(8) 公募要項を勘案した研究、教育(学部および大学院教育)、臨床および運営に対する抱負を、A4判の用紙に4,000字程度に要約し、記載すること。

(9) 科学研究費補助金・各種研究助成金等外部資金の獲得・受領状況 (別紙様式2)

- ① 2011年度以降の獲得状況を直接経費、間接経費に分け記載すること。
- ② 2010年度以前からの継続で、2011年度以降に終了の研究助成金等についても記載すること。その場合、獲得金額は2011年度以降の金額を記載すること。
- ③ 分担者としての助成金については、分担者として助成金を単独で直接受領した場合のみ記載し、その分担金額を記載すること。

(10) 特許等の取得および出願状況

(11) 関連する資格(歯科医師免許、認定医、専門医、指導医など)の証書の写し

(12) 推薦者のある場合は、その推薦状 (ただし推薦者は個人に限る)